

病防第153号
平成20年3月5日

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

夏秋栽培トマト産地におけるトマトすすかび病の発生状況（技術情報第14号）
について（送付）

このことについて、下記のとおり取りまとめましたので、参考資料としてご活用下さい。

記

1 目的

平成18年10月に阿蘇市と阿蘇郡南阿蘇村の夏秋栽培トマトにおいて県内で初めてトマトすすかび病の発生が確認された（平成19年2月13日付特殊報第1号参照）。これに伴い、冬春作トマトの主要産地を調査したところ、全ての地域ですすかび病の発生が確認された（平成19年7月23日付技術情報第5号参照）。更に県内の他産地における発生状況を把握するため、夏秋栽培トマト主要産地において、以下の調査を行った。

2 方法

- (1) 調査時期：平成19年8月下旬
- (2) 調査地域：阿蘇、上益城
- (3) 調査方法

すすかび病または葉かび病の発生している葉を1ほ場あたり4～24葉採取し、分生子を検鏡した。

3 結果および考察

- (1) 阿蘇地域では昨年すすかび病の発生が確認されていたが、今回の調査で新たに上益城地域で、すすかび病の発生を確認した（表1）。
- (2) これまでの調査により、すでに熊本、宇城、玉名、八代地域で発生が確認されている（平成19年7月23日付技術情報第5号参照）。
- (3) すすかび病の発生ほ場では、病徴が酷似した、葉かび病が混発しているところがあった（表1）。ほ場観察では、すすかび病を葉かび病と誤診して、見落としている可能性があると考えられる。
- (4) 以上の結果から、すすかび病菌は県内の広範囲に存在すると考えられ、条件が揃えば顕在化する可能性がある。

4 防除対策

現在、トマトすすかび病に対する登録薬剤が無いため、耕種的防除に努める。

- (1) 多湿条件で発病しやすいため、密植、過繁茂をさけ、施設内の換気を行う。
- (2) 発病葉、被害残さは伝染源となるので、ほ場外に持ち出し適切に処分し、ほ場内の菌密度を高めないようにする。

（参考）

葉かび病には複数のレースが存在し、抵抗性品種であっても感染するレースが確認されている。葉かび病抵抗性品種に発病している場合も、すすかび病とは断定せず、検鏡による診断を行う。

表1 夏秋栽培トマト産地におけるすすかび病発生調査結果

地域	調査ほ場		すすかび病 発生ほ場数	葉かび病 発生ほ場数
	調査品種	調査ほ場数		
阿蘇	桃太郎なつみ	1	1	0
	桃太郎ファイト	2	2	2
	桃太郎8	2	2	2
上益城	桃太郎8	6	4	6

熊本県農業研究センター 生産環境研究所
 病害虫研究室 予察指導係（病害虫防除所）
 担当：東 電話：096(248)6490